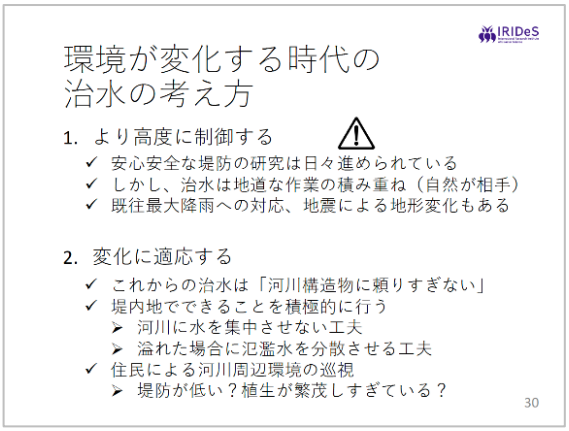
「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害科学概論を実施しました
(2020/10/10)

テーマ：近年の水害の傾向と対策、地震発生メカニズムの基礎と日本の地震発生リスク、大規模耐震実験、地震時の医療施設機能、津波災害・防災の基礎知識

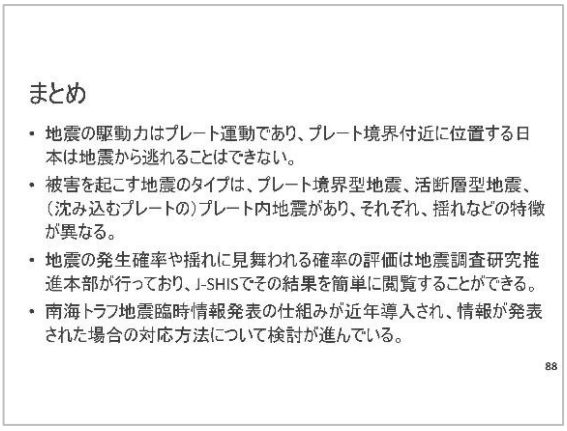
場　所：web（ホスト：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市））

2020 年 10 月 10 日（土）、文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害科学概論をオンラインで実施し、プログラム履修生 24 名（医療従事者、消防職員など）、オープン参加者 2 名の計 26 名が受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が全体進行、橋本雅和助教（災害リスク研究部門 環境変動リスク研究分野）、福島洋准教授（災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野）、榎田竜太准教授（災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野）、サッパシー アナワット准教授（同津波工学研究分野）、佐藤栄児主任研究員（防災科学技術研究所）が講師を務めました。

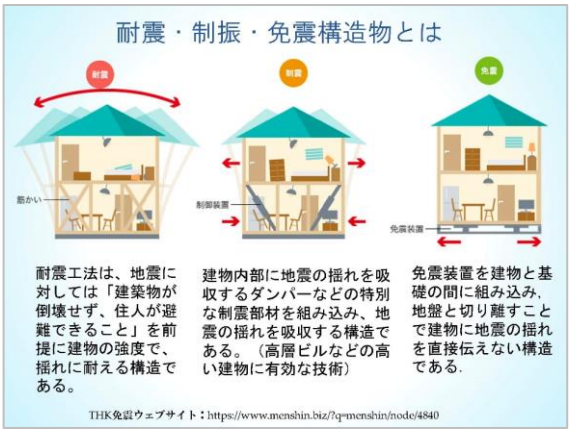
ふだん病院や消防署、役場などに勤務しているプログラム履修生は、台風や洪水などの水工学、地震発生・建物耐震・津波発生メカニズムなど、災害の基本となる学術的な知識に触れる機会はほとんどありません。ですが、これらの知識を有することで発生しうる被害を予測し初動の変容を図ることができます。学際的に災害を学び、多角的視野から災害にアプローチできる保健医療人材の育成が、本プログラムの特徴の一つです。橋本助教による洪水被害発生、国土保全の講義では、増加した河川水量を河川内部だけでコントロールすることは難しいこと、今後は溢水を許容する街づくり、国民への啓発に舵が切られることを聞き、履修生は自施設や周辺地域の浸水リスクを改めて認識し直す必要があることを痛感しました。



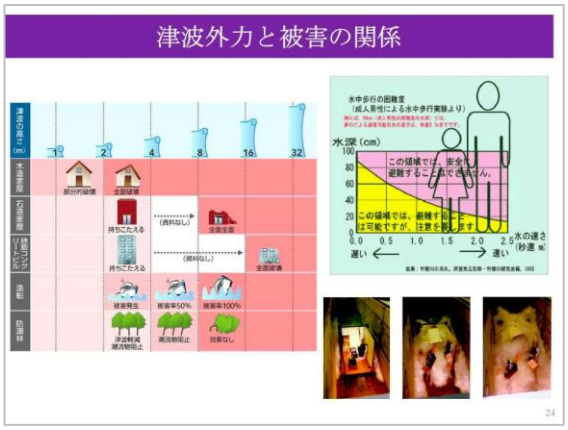
水害・水工学について（橋本助教）



地震について（福島准教授）



建物耐震について（榎田准教授）



津波災害について（サッパシー准教授）

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）、福島洋（災害理学研究部門）、
橋本雅和、榎田竜太、サッパシー アナワット（災害リスク研究部門）